



研究者総覧：上原早苗 (UEHARA, Sanae)

| | | |
|-----------|--|---|
| 氏名 (英語併記) | 上原早苗 (UEHARA, Sanae) |  |
| 職名 | 教授 | |
| 所属講座 | 英語高度専門職業人コース | |
| 学位 (専攻分野) | 博士 (文学)・名古屋大学 | |
| メールアドレス | uehara@lang.nagoya-u.ac.jp | |
| 個人のホームページ | http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~uehara/ | |
| 研究分野 | ヴィクトリア朝小説研究 | |
| | ヴィクトリア朝文化研究 | |
| | トマス・ハーディの草稿研究 | |
| 現在の研究テーマ | ヴィクトリア朝の出版制度・検閲制度の研究 | |
| 所属学会 | Thomas Hardy Association | |
| | 日本ハーディ協会 | |
| | 日本ヴィクトリア朝文化研究学会 | |
| 主要著書・論文 | Sanae Uehara et al., <i>Between Philology and Hermeneutics</i> (GCOE program series, Nagoya University, 2011). | |
| | 上原早苗、「ハーディによる本文改変を読む」、『文学』第11巻・第5号9・10月号 (特集＝草稿の時代)、岩波書店、2010年。 | |
| | Sanae Uehara et al., <i>Viewing Bodies, Reading Desire, Conceptualizing Families</i> (Nagoya University, 2009). | |
| 自己紹介文 | <p>19世紀イギリス社会における出版制度・検閲制度を研究しています。具体的には、作家の自筆原稿に残る編集者のブルー・ペンシルや植字工の改竄の跡を辿り、「言葉にできるもの」と「言葉にできないもの」とを分つものが何だったのか、を分析対象にしています。また、検閲(改変)によって小説テキストに生じた意味効果を軸に、小説を読み解くことも、このところの重要な研究テーマです。</p> <p>昨年は、「検閲と改変」「改変とテキスト解釈」というテーマで国際研究集会を企画し、アイルランドから研究者を招聘しました。国際研究集会の受付や会場整理にあたってくれたのは、高度職業専門人コー</p> |  <p>国際研究集会のポスター</p> |

| | |
|-------------------|---|
| | <p>スの学生でした。高度職業専門人コースには、英語の運用能力の高い院生が多く、こうした時に活躍してくれるので、頼もしくもあり、嬉しくもあります。</p> <p>作家の自筆原稿は、イギリス各地の資料館や博物館に収蔵され、いずれも「禁帯出」指定資料。そのためここ数年は、イギリスの資料館や博物館に頻繁に足を運んでいます。限られた時間内にどれだけ正確に原稿を解読できるかが勝負になりますので、一旦原稿を前にしたら作業に没頭しますが、休館日は、気分転換を兼ねてカントリー・ウォーキングへ。ヘザーやブルーベルの咲き乱れる高原や荒野には、この世のものとは思われないほどの、幻想的な美しさがあります。</p> |
| <p>受験生へのメッセージ</p> | <p>イギリス小説を研究するのが楽しい人、イギリス小説を通してイギリス文化を研究したい人を求めています。さらに言うと……小説テキストを丹念に読むことを厭わない人、テキストと何度も向き合える人。テキストの語りかけてくるものにこれまた何度も耳を傾けようとする人。（つまり粘着型？）こういう人を歓迎します。</p> <p>現在、私の指導生は、シャーロット・ブロンテ、ギヤスケル夫人、ジョージ・エリオット、トマス・ハーディなどを研究していますが、それ以外の作家でも指導可能。例えば、1860年代に大流行となった「センセーション・ノヴェル」の書き手や、1880年代から90年代にかけて流行った（物議を醸した？）「ニュー・ウーマン・ノヴェル」の書き手などを研究したい人も、歓迎します。18世紀あるいは20世紀以降の作家を研究したい場合は、事前にコンタクトをとって下さい。</p> |



ブロンテ・カントリーのヒース